

東京後楽ロータリークラブ週報

The Rotary Club of Tokyo Koraku Weekly Report



奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

「困っている人々を支援しよう」

～SERVE TO CHANGE LIVES～

「奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために」

2021年～2022年度 会長
富成 明彦

2021年～2022年度 国際ロータリー会長
シェカール・メータ

職業奉仕月間

2022年1月18日発行 (No.993)

第993回 例会

卓話「COVID-19 流行期の歯磨きの注意点」

甲斐 哲也 会員

CLUB NEWS

◆ 1月度定例理事会報告(1月11日開催)

1. 入会希望者について
入会希望の比留間将弘氏の2月からの入会を承認。
比留間氏は㈱オフィスワン代表として、畠山会員の交代で入会。畠山会員からは、新規会社の代表として、会員身分を継続するとの快諾頂き、是を承認。
 2. インターアクト委員会設置について
委員長を志熊会員、委員に富成、工藤、木津会員での設置を承認。
 3. 1000回例会(3月29日)について
夜間例会で行うことを決定。
 4. 米山奨学生の世話クラブ・カウンセラー引受けについて
世話クラブを引受けすることを決定。カウンセラーは、追って選任する。
 5. 名誉会員について
一度退会された元会員を対象に、名誉会員では無く会員資格の無い会友として処遇し、その場合はクラブの規約も見直す。継続審議。
 6. 次年度地区親睦ゴルフ大会北分区予選会について
実行委員会委員長に畠山会員、副委員長に住田(直)会員、本多会員を選任。(木津 記)
- ◆ 1月16日(日)茗溪会館に於いて、当クラブが提唱したインターアクトクラブ「文京第5団インターアクトクラブ」の認証状伝達式が開催されました。
- ◆ 国際ロータリーより1月のロータリーレートは、現行1ドル114円から115円に変更との連絡がありました。

前回例会

第992回例会

「職業奉仕月間に因んで」
鄭子揚 職業奉仕委員長

出席状況

第992回例会

出席 31名 欠席 12名
ビジター 1名 ゲスト 0名
阿部博司氏(東京小石川)
出席率:69.10% 前例会修正後:86.74%

ニコニコBOX

阿部博司氏(東京小石川):本年もよろしくお祈りします。
甲斐会員:昨年12月17日に、3人目の孫が生まれました。3,614gの男の子です。元気です。
住田(光)会員:老妻の誕生日。Thank You 感謝
久保田会員:明けましておめでとうございます。
今年もよろしくお祈り致します。
ミリオンマイルズ:2,835円 本年度合計:568,868円

例会案内

1月25日 卓話 野瀬 まり子 氏

「外見力でビジネスが決まる！」

「ネタイから始めるイメージ戦略」

2月1日 「クラブフォーラム」

～オープン例会について～



新年初例会の乾杯 村田会員

TEL: 03-5940-3355 FAX: 03-3947-4010 E-Mail: koraku@mint.ocn.ne.jp

例会 毎週火曜日12時30分 / 東京ドームホテル 電話: 03-5805-2111

事務局 〒112-0014 文京区関口2-10-8 藤田観光(株)別館内

会長 富成 明彦 / 幹事 工藤 研 / 会報委員長 高橋 太郎

URL <http://www.korakurotary.com>

ばれるものです。主に感染した人の便を介してうつるもので、典型的には汚染された水を介し、人から人へ伝搬し、手足の筋肉や呼吸する筋肉等に作用して麻痺を生じることがあります。感染力は、非常に高く、永続的な後遺症を残すことがあります。ポリオウイルスに感染した場合、弛緩性麻痺(だらんとした麻痺)を起こす割合は1%以下とされていますが、麻痺性のポリオを発症した場合、一般に2~5%の子どもが亡くなってしまいます。小児まひといわれていますが、成人がなることもあり、その時は重症化しやすく、15~30%の方が亡くなると言われています。

ポリオは子供が感染しやすい病気で、子供の中でも5歳未満の乳幼児、非常に小さな子供が最も感染しやすいと言われています。

このポリオについては、残念ながら現段階において、治療法はなく、ワクチンで予防することはできるので、ワクチンの接種が非常に重要となっています。日本は、ポリオフリーの国ですが、現在でもジフテリア、百日せき、破傷風、ポリオの四種混合ワクチンとして生後3ヶ月から合計4回にわたって予防接種を行っています。

ワクチンが大事というお話をさせていただきましたが、皆さんは、ワクチンの歴史についてご存知でしょうか？ロータリーの資料によると、紀元前430年にギリシャの歴史家トゥグディアスは、その年アテネで流行した疫病を生き延びた人がその疫病に再びかかることはない、ということに気が付いたそうです。その後の記録では、人痘接種法、すなわち、天然痘にかかった人の膿とかそういったものの一部を健常者が接種して免疫を獲得する方法について最古の文献が中国にあります。

具体的には、天然痘患者のかさぶたを乾燥させて粉碎し、その粉を非感染者の鼻孔に吹き込むという方法を行い、女性は左穴、男性は右穴で行っていたようです。なお、男女で位置に違いがある理由は資料に記載がなかったため分かりませんでした。この接種法が行われた人のうち、天然痘で死亡したのは約1~2%であったのに対し、その方法を受けずに天然痘に感染した人の死亡率は30%であったとされています。なお、最古の文献は中国にありますが、必ずしも中国から始まったというわけではないようです。

人類最初のワクチンの開発は、18世紀末になります。

天然痘にかからないという農民の言い伝えを調査していたイギリスの医師エドワード・ジェンナー氏は、天然痘よりも軽い病気である牛痘(ぎゅうとう)にかかった乳搾り労働者から採取した液体を8歳の子供に接種しました。そして、この牛痘から比較的早く回復した子供に天然痘を接種したところ、症状が出ませんでした。ジェンナーは、この発見を牛を意味するラテン語「vacca」にちなんで「vaccination」(ワクチン接種)と名付けました。これまでは、人痘接種、人から人へ、天然痘から天然痘というものでしたが、牛痘接種、牛痘から人という、弱いものから強いものへの免疫を獲得するという方法が開発され、これがワクチンの始まりとなっています。

この牛痘接種法は、天然痘に対するものですが、のちのフランスの細菌学者パスツールは“強い病気を引き起こすものから弱い病気を引き起こすものを人工的に作り出してそれをワクチンにする”という考えに基づき、現在のワクチンの原理を構築しました。パスツールは、この方法についても、ジェンナーに敬意を評しvaccinationという名を当てたことから、ワクチンという言葉が一般的に用いられるようになったとされています。このワクチンの開発以来、ワクチンによって救われた人の数は1000万人に上ると推定されています。

このワクチンの日本での状況と、ポリオに対する取り組みですが、日本では、1950年代に日本脳炎が流行し、ワクチンの推奨接種が行われています。1960年に日本でポリオが大流行した際には、翌年1961年にソ連からワクチンを緊急輸入して世界に先駆けて一斉接種を行い、この危機を乗り越えました。予防接種を行っ

りますが、交渉は難航しているようです。

このようにワクチンの開発や、ロータリー等によるポリオ撲滅活動により、野生型ポリオウイルスの常在国は、1988年に125か国であったのが、現在は2か国となっています。2020年の前半までは、3か国でしたが、2020年8月にWHOはナイジェリアについてのポリオフリーを宣言し、アフリカのポリオフリーが達成され、常在国はいよいよ残り2か国となっています。

残る2か国であるアフガニスタンとパキスタンについても、現在、報告された症例はともに1件ずつとなっており、本当にあとちょっとのところまで来ております。

残りの2か国のうちの一つであるアフガニスタンですが、アフガニスタンでも南部と東部の非常に限られたところで発生しており、国土の96%では症例が0件となっています。

一方で、アフガニスタンでは、

- ・保護者のワクチンへの不信感
- ・清潔な水や食べ物が不足している状況で、ワクチンよりも清潔な水を求められることがある
- ・安全上の理由から家を訪ねて子供たちを探しワクチン接種をするキャンペーンが難しい地域がある。
- ・パキスタンと国境を接する東部で多くの人が往来する。

といった問題があり、地元で信頼されている宗教指導者などを頼りにし、理解を求める、UNICEFでは保健や水と衛生、栄養などのセクターと協力して、ワクチンへの受け入れを促す等の活動を行っています。アフガニスタンはタリバン政権となり、ポリオワクチンはどうなるのか？が非常に心配されますが、ユニセフによれば、タリバン政権も予防接種の支援を決断したということで、アフガニスタン全土での予防接種が3年ぶりに再開するようです。11月8日に開始ということで報道を確認したところ、無事予防接種が再開されたようです。

これまでに約30億人の子どもに予防接種がされ、1988年以来、発症数は99.9%減少をしております。このように着実に歩を進めているポリオ根絶活動ですが、このポリオ根絶活動の歩みが止まるとどういったことが起こるのでしょうか。資料によれば、世界からポリオを根絶しない限り、今後10年以内に、世界での年間発症数は20万件に上ると予想されています。ポリオの常在国はわずか2か国ですが、ポリオの発症がどこかで起きている限り、感染の危険は世界中の子どもに及ぶこととなります。ポリオフリーの国においても予防接種が適切になされていないと、また、流行、アウトブレイクの危険があると言われております。新型コロナ・ウイルスについてもある一定の接種率があると、感染拡大しないという集団免疫について獲得ができるできないといったことが言われておりますが、先日参加したワークショップの高柳先生のお話では、ポリオについて接種率の目安は、80~86%とされており、例えばフィリピンなどでは66%であり、アウトブレイクの危険があるとのお話がありました。野生型ポリオの常在国は、2か国となり、その2か国での発症件数も各1件となっています。ポリオフリーが実現された場合、これは天然痘に続いて2番目に根絶される疾病となり、教科書に載るような出来事がもう目の前に迫っています。

新型コロナ・ウイルスについて我々がワクチンの開発や接種を今か今かと待ち望んだように、世界にはポリオワクチンを待ち望んでいる多くの子どもがいます。ポリオワクチンを届け、ポリオ根絶の最後の一步を達成するために是非ご支援・ご協力をお願いいたします。ご清聴ありがとうございました。